

いまもあしたも誇れる座間であるために…

発行者：おぎはら健司  
メールアドレス：info@ogiharakenji.com  
連絡先：042-719-4972 (ファックスも同じ)

# おぎはら健司の市政レポート

## 平成28年第四回定例会開会！

去る11月25日から平成28年第四回定例会が招集され、補正予算案や条例改正案などが上程されました。

今年度一般会計予算の補正予算案については、歳入・歳出ともに12億7,115万2千円を増額するものですが、特に大きなものは法人市民税の減収分6億2,489万円余となっています。

これは、今年度に入り不透明感が英国のEU離脱国民投票や米国の大統領選などの影響で為替が乱高下し、その結果、自動車業界など輸出産業の企業収益予想が下方修正されたため、歳入減を補正するものです。

その財源を穴埋めする為に使われるのが、このレポートでも何度か紹介している「財政調整基金」、いわば地方自治体の「ヘソクリ」です。年度間の財源を調整するために、その年度ごとに余剰金（事業ごとの執行残。例えば公共施設の修繕のための費用が少額で済んだ際の執行残など）を積み立てることで、今回のようなケースや、国・県の交付金は、それぞれに補助率が定められており、交付を受ける際に必要となる市が用意する一定の財源などに充当されます。今回は4億3,474万円余を基金から繰り入れることで、こうした財源の穴を埋めています。

また、生活保護法定扶助事業費が1億5千万円増額補正されています。これは、4年ぶりに年度途中での増額補正となるわけですが、ここ数年「その他世帯」（いわゆる働けるけど働けない方、働く場所が見つからない方などの世帯）への就労支援が奏功し、増額の必要がなかった事などが要因ですが、今回の詳細について確認したところ、生活

保護受給者の医療扶助費が増加傾向にあるという事でした。

これは、受給者の実態を精査すると、ご高齢者の受給世帯が増加傾向にあるということで医療費が増加していることに加え、新生物（がん）や肝炎治療が進歩し、高額な薬剤や治療などが保険対象となった事で、結果として生活保護費の医療扶助費に跳ね返る事になり、改めて制度の改善などについて国に要望をしていきたいと感じました。

道路関係では、小松原交差点の改良工事について一部の土地所有者のご協力が得られた事で、用地の事前取得に向けた予算が計上されております。

また、平成29年度当初予定であったコミュニティバス運行見直しを、来年2月に2ヶ月ほど前倒し実施するための予算も計上され、相模が丘地域については、中型のバスが導入される事に加え、これまで2路線が同じ方向（反時計回り）で運行されていたものが、別々の周回方向で相模が丘を循環する事になり、利便性の向上が期待されます。

## 自主財源の創出を！

明日の登壇になる見込みですが、今回も一般質問の機会を頂き、以前から取り上げている、市有地の有償貸付による自主財源の創出を取り上げる予定です。

今年度、新田宿グラウンドに自販機が同条件にて設置され、これまで年間5千円程度の収入であったものが、13万円ほどになった事は既報のとおりですが、同様の手法で二匹目のドジョウを探そうという提案です。

上手く見つかるかどうか、市の積極的な姿勢を見せるべきという考え方を示し、新たな取組みに期待したいと思っております！